

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

山野中学校区	校番 42	福山市立山野小学校
最終更新日		2022年(令和4年)10月21日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 地域のコロナ感染状態を考慮した地域とのコミュニケーションに取り組んでほしい。 子ども達が卒業・閉校の意識を持って一日一日を大切に過ごせるように取り組んでほしい。	児童生徒の現状 自分の考えや意見を相手に伝えることが苦手である。また、学校行事などの取り組みの中で、中学生との交流を行うなど、児童・生徒が協働して学んでいる。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	○問題解決力 ○協調性・柔軟性 ○幅広い人間関係を築くコミュニケーション力 ○チャレンジ精神 ・確かな学力として、自ら学び続ける意欲を持った子ども ・豊かな心として、相手を尊重し、共に高まり合う子ども ・自律として、判断する力と責任ある行動ができる子ども ○自ら考え、学び合う授業や行事等の取組 ○個に応じたきめ細かい丁寧な指導の徹底 ○幅広い思考力や表現力を育成するための思考・表現活動の充実 ○地域等のふるさと学習の充実
--	--	---	--

III 自校

ミッション 地域を生かした学習を教育課程に位置付け、自ら考える授業や行事等に取り組む。また、個に応じた支援を適切に行い、他律から自律の心を育てる。子どものやる気を高め、自己実現に向けて努力する等、地域に誇れる学校となる。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	問題解決力	課題発見力	選択・判断力	チャレンジ精神	
学校教育目標 確かな学力と豊かな心を持ち、自らたくましく生きる子どもの育成	1・2年	疑問に対し、自分の考えが持てる。	身近なふしぎを見つける。	自分の学習・生活を振り返る。	好きなことや得意なことに取り組む。	
現 状 <児童生徒> 少数指導による個に応じたきめ細かい丁寧な指導を通して、学力の定着・向上に取り組んでいる。子どもたちが決めて行動する機会を増やしている。 同年代の児童との関わりが少なく、幅広い人間関係づくりや表現力に課題がある。体験活動や地域の方との交流等では、主体者となって取り組む必要がある。 <授業> 「新しい学びの創造」をテーマに、年間を通じて小中合同授業研究に取り組み、同じ研究主題で授業改善を進めている。児童が、授業の中で新たな課題を発見し、追究する授業について研究を進め、子ども自身が学びが面白いもっと知りたいと喜びが持てる授業を行っていく。	めざす子ども像	3・4年	疑問に対し、様々な考えがあることを知る。	身近なふしぎを調べる。	学習・生活を選択し理由を持つ。	好きなことや得意なことを増やす。
	5・6年	疑問に対し、いくつかの視点から物事を考えられる。	身近なふしぎを考察する。	合理的選択のよさや学習・生活の未来を予測する。	好きなことや得意なことを積極的に増やし、自信をつける。	
	テーマ	子ども主体の新しい発見の創造 ～自己選択・決定力、追求力の育成～				
	研究内容等	・学習過程において、課題や気付きなど新たな発見のあるわくわくする授業を創造する。また、子どもが課題を選択し、解決の道筋を思考・判断・表現できる深い学びのできる教師の発問を追求する。 ・学習意欲を喚起する手立てや支援についての取組をデータ化する。				
	めざす授業の姿	・児童自らが主体となって学習を計画(選択)・実行する。 ・児童の学びの道筋を構想し、未来志向で学ぶ意欲が高まる授業を作る。 ・児童自身が新たな発見をし、解決するために必要な方法を考える授業をめざす。				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立山野小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
3年目	子ども主体の学びに向かった授業等を実践する。	★	継続	新たな発見をする授業を実践し、子どもの学ぶ意欲を喚起する。	主に国語、算数、社会、理科の単元構想を工夫し、子どもが選択しながら学習をすすめる授業をする。	各教科の単元構想のデータ化を80%達成	算数、国語において単元構想を工夫し、データ化した。(50%)	3	2	社会、理科において単元構想を工夫する。子どもの実態に合わせて学習選択肢を増やすなど、自分で課題を見つけ解決していく単元を増やす。				
2年目	ICT等を活用し、個別最適な学習を図る。	★	新規	ICT等を効果的に活用し、自らの学習を振り返る児童を創造する。	学校、学年通信のオンライン化や学習支援ソフトの使用時間を定める。	学期ごとの通信のオンライン化とICTタイム実施	月ごとの通信をオンライン化(1年)とICTタイムを計画通り行った。	3	3	登校後、児童がクラスルーム、スタディサプリ等を見る時間を設ける。				
1年目	業務改善を図る		新規	ペーパーレスの業務を実現し、時間を削減する。	クラスルームを活用し、説明資料をオンライン化する。	説明資料のオンライン化	サービス研修では、配布資料をオンライン化して実施した。	3	3	デジタル化に移行可能な業務を出し合い、更に取組を進める。				

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。